

令和4年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 （基準値）	R3年度	R4年度	中期 目標	決算額 （千円）	予算額 （千円）	決算額 （千円）						
I-2-(1)-② 大学などの教育研究機能の充実	1	④	公立大学法人北九州市立大学運営事業	総務課	公立大学法人の設立団体として、地方独立行政法人法第42条に基づき、業務運営に必要な経費を交付し、法人の業務運営の健全性を確保する。	公立大学法人北九州市立大学評価委員会における各事業年度に係る業務に対する評価	目標	A (計画どおり)	A (計画どおり)	A (毎年度)	2,665,235	2,665,000	2,667,912	13,200	順調	令和4年度に係る公立大学法人北九州市立大学評価委員の評価結果は「A（計画どおり）」の評価を得ており、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 公立大学法人北九州市立大学の評価について、計画どおりとの評価を得ているため、「順調」と判断。 【課題】 引き続き、大学の取組を注視していくとともに、効果的な研究活動の支援のため、大学のニーズに応じた支援に努めていく必要がある。	引き続き、公立大学法人北九州市立大学の健全な業務運営と教育研究の高度化、地域への貢献などを支援する。
							実績	A (計画どおり)	A (計画どおり)										
							達成率	—	—										
						目標	単年度目標設定なし	A (計画どおり)	A (R5年度)										
実績	—	A (計画どおり)																	
達成率	—	—																	
I-2-(1)-④ シンクタンクを活用した調査・研究機能の強化	2	④	公立大学法人北九州市立大学運営事業	総務課	北九州市立大学地域戦略研究所での地域研究プロジェクト、受託調査を通じて、地域研究の高度化を推進する。	公立大学法人北九州市立大学評価委員会における各事業年度に係る業務に対する評価	目標	A (計画どおり)	A (計画どおり)	A (毎年度)	2,665,235	2,665,000	2,667,912	13,200	順調	令和4年度に係る公立大学法人北九州市立大学評価委員の評価結果は「A（計画どおり）」の評価を得ており、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 公立大学法人北九州市立大学の評価について、計画どおりとの評価を得ている。 アジア成長研究所においては、引き続きオンラインによるセミナー開催や学会活動等の地域貢献・学術研究活動を推進している。 また、研究成果が著名な雑誌に掲載されるなど国内外での評価を受けている。 以上のことから、「順調」と判断。 【課題】 引き続き、大学の取組を注視していくとともに、効果的な研究活動の支援のため、大学のニーズに応じた支援に努めていく必要がある。 アジア成長研究所においては、「国際水準の知的基盤の強化」を維持しながら市のシンクタンクとしての機能を強化し、「地域への知的貢献」につながる活動を引き続き推進していく必要がある。	引き続き、公立大学法人北九州市立大学の健全な業務運営と教育研究の高度化、地域への貢献などを支援する。 アジア成長研究所においては、中期計画に基づき、北九州を中心とする地域社会の政策立案への貢献や、教育・研究機関及び民間企業との連携強化など、地元貢献を重視した、日本を代表するアジア研究機関を実現するため、地域への知的貢献と国際水準の知的基盤の強化を目的とした活動を行う。
							実績	A (計画どおり)	A (計画どおり)										
							達成率	—	—										
						目標	単年度目標設定なし	A (計画どおり)	A (R5年度)										
実績	—	A (計画どおり)																	
達成率	—	—																	

令和4年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現況値 （基準値）	R3年度		R4年度		中期 目標	決算額 （千円）							予算額 （千円）	決算額 （千円）
3	④ ⑨ ⑰		(公財) アジ ア成長研究所 補助金	国際 政策 課	地元貢献を重視 した日本を代表す るアジア研究機関 を実現するため、 地域への知的貢献 と国際水準の知的 基盤の強化を目的 に活動を行う（公 財）アジア成長研 究所へ補助金を交 付する。	著名な学術雑誌へ の論文掲載数	—	目標	5	本	5	本	5本 (毎年 度)	111,400	140,000	140,000	4,650	順調	市民・企業・行政向け講座 を多く開催し、地域貢献に持 続的に取り組んだ。 また、著名な学術雑誌への 論文掲載数が目標を達成した ほか、令和3年度と比較し、 外部資金の獲得数も増加し た。 このように、地域をテーマ とした研究活動と国際水準の 研究活動を両立したことから 「順調」と判断。		
							—	実績	5	本	5	本									
						科学研究費を含む 外部資金獲得数	—	目標	6	件	6	件	6件 (毎年 度)					順調			
							—	実績	5	件	7	件									
I-2- (2)-③ アジア との架 け橋と なる人 材の育 成	4		④ ⑨ 公立大学法人 北九州市立大 学運営事業	総務 課	公立大学法人の 設立団体として、 地方独立行政法人 法第42条に基づ き、業務運営に必 要な経費を交付し、 法人の業務運営 の健全性を確保 する。	公立大学法人北九 州市立大学評価委 員会における各事 業年度に係る業務 に対する評価	A (R1年 度)	目標	A (計画ど おり)	A (計画ど おり)	A (毎年 度)	A (毎年 度)	2,665,235	2,665,000	2,667,912	13,200	順調	令和4年度に係る公立大学 法人北九州市立大学評価委員 の評価結果は「A（計画どお り）」の評価を得ており、 「順調」と判断。	【評価理由】 公立大学法人北九州市立大 学の評価について、計画どお りとの評価を得ているため、 「順調」と判断。 【課題】 引き続き、大学の取組を注 視していくとともに、効果的 な研究活動の支援のため、大 学のニーズに応じた支援に努 めていく必要がある。	引き続き、公立大学法人北 九州市立大学の健全な業務運 営と教育研究の高度化、地域 への貢献などを支援する。	
							A (H28年 度)	目標	単年度目標 設定なし	A (計画ど おり)	A (計画ど おり)										A (R5年 度)

令和4年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R3年度	R4年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性			
						指標名等	現状値 （基準値）	R3年度	R4年度	中期 目標	決算額 （千円）	予算額 （千円）							決算額 （千円）		
II-3-(3)-① 多文化共生社会の実現に向けた体制の構築	5	④ ⑩ ⑪ ⑰	多文化共生の推進	国際政策課	外国人市民が安心して暮らすことができる多文化共生のまちづくりを推進するため、外国人市民が抱える生活上の諸問題や支援に対するニーズの把握を行う。	市民の「多文化共生」という言葉の認知度	51.8% (H29年度)	目標 54.0 %	実績 59.9 %	達成率 110.9 %	61.0 %	62% (R6年度)	39,840	42,803	42,054	3,075	順調	外国人市民の意見を市政に反映する「多文化共生ディスカッション」を活用して、外国人のための防災ハンドブックに対する意見を聴取し、改訂に反映するなど、外国人市民が安心して暮らすことができる多文化共生のまちづくりを推進したことから、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 外国人市民の意見を反映した防災ハンドブックの改訂など、外国人市民の災害対応や日常生活の困りごとなどに真摯に対応しており、多文化共生のまちづくりを推進したことから、「順調」と判断。	引き続き外国人市民が安心して住み続けられるよう、外国人市民の課題・現状の把握に努め、地域との共生など、改善に向けた効果的な事業の実施に努める。
	6	④ ⑩ ⑪ ⑰	多文化共生ワンストップインフォメーションセンター運営事業	国際政策課	外国人市民が安心して生活するための情報提供や相談に多言語で一元的に対応する「北九州市多文化共生ワンストップインフォメーションセンター」の運営を行う。	外国人市民の生活環境の向上（多文化共生の現状調査で暮らしやすいと回答）	79.7% (H26年度)	目標 単年度目標設定なし	実績 —	達成率 —	単年度目標設定なし	80%以上 (R6年度)	24,715	24,715	24,715	2,325	順調	北九州市多文化共生ワンストップインフォメーションセンターにおいて、電話や、メール等を含め、年間1,140件の相談に対応しており、関係機関との連携により、外国人市民の困りごとに対応まで伴走して対応するなど、外国人市民の生活環境の向上に向けた取組を実施したことから、「順調」と判断。	順調	【課題】 日本人市民と外国人市民が、”顔の見える関係”を築くには、引き続き、地域における多文化共生の取組に課題が残る。	
II-3-(3)-② 外国人市民の生活環境の充実	7	④ ⑩ ⑪ ⑰	多文化共生の推進	国際政策課	日本語の不得手な外国人市民へのサポートとして、行政機関や医療機関（健康診査）に通訳ボランティアを派遣するとともに、災害時通訳も含めた通訳スタッフのスキル向上を図る。 また、多言語等でわかりやすい生活情報の提供をすることにより、外国人市民の安全・安心な生活環境の整備を推進する。	外国人市民の生活環境の向上（多文化共生の現状調査で暮らしやすいと回答）	79.7% (H26年度)	目標 単年度目標設定なし	実績 —	達成率 —	単年度目標設定なし	80%以上 (R6年度)	39,840	42,803	42,054	3,075	順調	コロナ禍に開始した現地への派遣が難しい場合における、電話・メールなどを用いた遠隔による通訳対応を継続するなど、柔軟な対応を実施したことから、「順調」と判断。 (行政・医療通訳派遣件数：令和2年度148件→令和4年度206件)	順調	【評価理由】 多文化共生社会の実現のため、一元的相談窓口における伴走型支援など、外国人市民が安心して生活できる環境構築に努めたことから、「順調」と判断。 【課題】 引き続き、高いレベルでの相談体制の維持に努めるとともに、相談窓口においては、外国人市民の認知度向上が必要。	引き続き、（公財）北九州国際交流協会と密に連携し、急激に変化している外国人市民を取り巻く環境に対応するため、効果的な支援を実施していく。
	8	④ ⑩ ⑪ ⑰	多文化共生ワンストップインフォメーションセンター運営事業	国際政策課	外国人市民が安心して生活するための情報提供や相談に多言語で一元的に対応する「北九州市多文化共生ワンストップインフォメーションセンター」を設置し運営を行う。	外国人市民の生活環境の向上（多文化共生の現状調査で暮らしやすいと回答）	79.7% (H26年度)	目標 単年度目標設定なし	実績 —	達成率 —	単年度目標設定なし	80%以上 (R6年度)	24,715	24,715	24,715	2,325	順調	北九州市多文化共生ワンストップインフォメーションセンターにおいて、電話やメール等を含め、年間1,140件の相談に対応しており、関係機関との連携により、外国人市民の困りごとに対応まで伴走して対応するなど、外国人市民の生活環境の向上に向けた取組を実施したことから、「順調」と判断。	順調		

令和4年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R3年度 決算額 （千円）	R4年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 （基準値）	R3年度	R4年度		中期 目標	予算額 （千円）							決算額 （千円）
II-3-(3)-③ 市民の国際理解の推進	9	④ ⑩ ⑪ ⑰	多文化共生の推進	国際政策課	日本人市民に対して、多文化共生に関する意識啓発や国際交流の機会や場の提供を行うことで、外国人を受け入れる地域づくりを目指すとともに、すべての市民が安心して暮らし、自己の能力を發揮できる「多文化共生先進都市」としてのまちづくりを推進する。	市民の「多文化共生」という言葉の認知度	51.8% (H29年度)	目標 54.0 % 実績 59.9 % 達成率 110.9 %	61.0 % 60.6 % 99.3 %	62% (R6年度)	39,840	42,803	42,054	3,075	順調	多言語ラジオ放送により、北九州市在住の外国人市民が本市の魅力や母国について語る「北九州市多文化共生Radio」による啓発番組の放送や、外国人市民と日本人大学生がペアを組みロゲイニングを行う「多文化共生ロゲイニング」を初めて開催するなど、多文化共生のまちづくりにつながる意識啓発を行ったため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 メディアを活用した意識啓発や、イベントを通じて若い世代の外国人市民と日本人市民の交流が生まれるなど、多文化共生のまちづくりにつながる事業を行ったことから、「順調」と判断。 【課題】 日本人市民と外国人市民が、“顔の見える関係”を築くには、引き続き、地域における多文化共生の取組に課題が残る。	多文化共生の理解者の広がりや、地域づくりの担い手育成に向けて、引き続き、外国人市民及び日本人市民のニーズを把握し、必要な事業を実施する。
III-1-(1)-② 定住促進や地域活性化のための環境づくり	10	③ ⑧ ⑪ ⑰	定住・移住促進事業	企画課	北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略に人口減少対策の重要な柱の1つとして位置づける「定住・移住の促進」を図るため、首都圏におけるPRや「北九州市版生涯活躍のまち」の推進等に向けて取り組むもの。	20歳代～30歳代の社会動態の増加数	0人 (R1年)	目標 100 人 実績 362 人 達成率 362.0 %	150 人 0 人 0.0 %	450人 (R3～R5年)	48,186	46,190	38,256	30,750	遅れ	「北九州ライフセミナー」の開催については、「テレワーク」や「子育て」、「移住支援」のテーマで3回実施し、目標回数を達成した。「定住移住促進PRツールの作成」については、各種パンフレットの刷新や、オンライン相談ツールを作成し、目標値を上回った。しかしながら、アフターコロナになりつつあった中で、東京圏への人流が復活し、令和4年度の20歳代～30歳代の社会動態の増加数は目標値を下回ったため、「遅れ」と判断。	やや遅れ	【評価理由】 若年層向けのセミナーの開催、定住移住促進PRでは、オンライン相談ツールを作成し、20歳代～30歳代に特化した取組を行ったが、令和4年度の20歳代～30歳代の社会動態は目標を下回った。複業・兼業のマッチング件数は目標に届かなかったものの、KitaQサポーター登録者数及び新規移住相談者数は目標を上回った。以上のことを総合的に勘案し、「やや遅れ」と判断。 【課題】 東京圏への一極集中が再加速している中で、更なる改善が必要であり、本市が進めている事業や本市の住みやすさの情報発信を強化し、若い世代から選ばれるまちづくりを目指し、定住・移住につなげていく。	移住者の実態把握による情報発信やPR手法の見直し、また、既存の移住支援策については、効果の検証を行い、変更も検討し、定住・移住を促進する。様々な機会を通じて本市の情報発信、関係人口の拡大を図るワークショップを開催するなど、継続的な取組を行う。複業・兼業のマッチングについては、令和5年度で現在の事業は終了予定である。

令和4年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善												
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R3年度	R4年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性				
						指標名等	現状値 （基準値）	R3年度		R4年度		中期 目標							決算額 （千円）	予算額 （千円）	決算額 （千円）	
11	⑧ ①		複業・兼業による関係人口づくり事業～北九州市と首都圏を結ぶ人材マッチング～	東京事務所	専門的な知識を有する首都圏の人材と本市企業とのマッチングを通じて、関係人口の拡大を図り、将来的な本市への移住にもつなげていく。また、若い世代の関係人口拡大のため、学生を対象とした多課題解決型ワークショップを実施する。	複業・兼業のマッチング件数	目標	10	件	20	件	累計60件 （R5年度）	10,550	9,000	7,149	20,700	順調	複業・兼業のマッチング件数は目標に届かなかったものの、KitaQサポーター登録者数及び新規移住相談者数は目標を上回ったため、「順調」と判断。				
							実績	10	件	13	件											
							達成率	100.0	%	65.0	%											
			KitaQサポーター登録者数	2,032人 （R1年度）		目標	2,700	人	2,900	人	登録者数計 3,100人 （R5年度）	10,550	9,000	7,149	20,700	順調	複業・兼業のマッチング件数は目標に届かなかったものの、KitaQサポーター登録者数及び新規移住相談者数は目標を上回ったため、「順調」と判断。					
						実績	2,961	人	3,746	人												
						達成率	109.7	%	129.2	%												
			東京事務所における新規移住相談者数	149人 （R1年度）		目標	200	人	200	人	新規移住相談者数200人 （毎年度）	10,550	9,000	7,149	20,700	順調	複業・兼業のマッチング件数は目標に届かなかったものの、KitaQサポーター登録者数及び新規移住相談者数は目標を上回ったため、「順調」と判断。					
						実績	179	人	290	人												
						達成率	89.5	%	145.0	%												
Ⅲ-2-(1)-① 近代化遺産などの文化財の保存・継承	12	①	世界遺産維持活用保全事業	総務課	国や関係自治体、所有者等との連携のもと、遺産価値の保全につとめる。	登録資産の保全	目標	ユネスコへの報告書作成	ユネスコへの報告書作成	ユネスコへの報告書作成 （毎年度）	27,445	27,132	26,013	5,800	順調	世界遺産構成資産について、年次報告書を作成した。加えて、まつり起業祭、わっしょい百万夏まつりなどのイベントに、世界遺産PRブースを出展し、世界遺産の価値の理解増進を図るとともに、目標件数も達成したため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、バスツアーは実施できなかったが、ツアー再開に向けた調整を行った。世界遺産の保全に向けた報告書の作成や、世界遺産の価値の理解増進への取組を実施したことから、「順調」と判断。 【課題】 関係機関と連携しながら、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じたバスツアーの実施と、世界遺産の更なる魅力発信に努める必要がある。	世界遺産の構成資産の保全を図ると同時に、世界遺産の理解増進に努め、バスツアーの実施など、賑わいづくりの資源としての魅力向上を図る。			
							実績	ユネスコへの報告書作成	ユネスコへの報告書作成													
							達成率	—	—													
						まつり起業祭等、地元の祭り等に出展	2件 （R1年度）	目標	2	件	2	件	2件 （毎年度）	27,445	27,132	26,013	5,800	順調	世界遺産構成資産について、年次報告書を作成した。加えて、まつり起業祭、わっしょい百万夏まつりなどのイベントに、世界遺産PRブースを出展し、世界遺産の価値の理解増進を図るとともに、目標件数も達成したため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、バスツアーは実施できなかったが、ツアー再開に向けた調整を行った。世界遺産の保全に向けた報告書の作成や、世界遺産の価値の理解増進への取組を実施したことから、「順調」と判断。 【課題】 関係機関と連携しながら、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じたバスツアーの実施と、世界遺産の更なる魅力発信に努める必要がある。	世界遺産の構成資産の保全を図ると同時に、世界遺産の理解増進に努め、バスツアーの実施など、賑わいづくりの資源としての魅力向上を図る。
								実績	2	件	2	件										
								達成率	100.0	%	100.0	%										

令和4年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画		【Do】 実施		【Check】 評価											【Action】 改善			
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R3年度 決算額 （千円）	R4年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 （基準値）	R3年度			R4年度							
	13	⑩	世界遺産集客にぎわい創造事業	総務課	理解増進に向けた取組として旧本事務所見学バスツアー等を実施する。	バスツアーの参加者数 ※中期目標改訂（R5年度目標設定時）	64人	目標 160人 実績 0人 達成率 0.0%	180人 0人 0.0%	120人（R5年度）	500	1,400	386	5,800	遅れ	新型コロナウイルス感染症の影響により、バスツアーを実施できなかったため、「遅れ」と判断。		
IV-3-(1)-② 地域企業のニーズに沿った人材育成・確保の促進	14	⑧	地元就職促進に向けた市内大学等助成事業	総務課	大学生の地元就職の促進等に取り組む市内大学等に対して、新たな助成制度により支援することで、市と大学等が連携して地域と大学等の活性化に取り組むもの。	市内大学生の地元就職者数	868人（R1年度）	目標 前年度（903人）比増 実績 923人 達成率 102.2%	前年度比増 集計中 —	1,200人（R6年度）	33,342	49,000	32,741	8,300	順調	令和4年度実績は集計中であるが、市内大学生の地元企業への就職者数が目標を上回る見込みのため、「順調」と判断。 【課題】引き続き、市内大学等と連携を進め、市内大学生等の地元企業への就職を促進していく。	引き続き、市内大学等と連携を進め、市内大学生等の地元企業への就職を促進していく。	
IV-4-(1)-① 北九州の魅力づくり	15	⑧ ⑩	北九州市魅力発信事業	企画課	市民自らがまちの魅力を発信するウェブサイト「北九州市 時と風の博物館」を通じて、本市の魅力を発掘・再発見し、さらに情報の共有や補足等を行うことで、地域資源を磨きあげ、効果的な情報発信を展開する。	本市への愛着があると答えた（肯定的な回答をした）市民の割合	79.3%（H25年度）	目標 90.0% 実績 83.1% 達成率 92.3%	90.0% 83.8% 93.1%	90.0%（R6年度）	2,397	4,221	3,307	8,700	順調	成果指標の「本市への愛着がある」と答えた市民の割合は、令和3年度の実績に比べてわずかながら増加し、「本市が好きだ」と答えた市民の割合は、令和3年度の実績に比べわずかに減少した。 両指標とも目標値に達することはできなかったものの、成果指標の達成率は90%以上と高い水準で推移していることから、おおむね「順調」と判断。 【課題】若い世代を含めた幅広い世代を広く巻き込むことで、多くの市民が本サイトを通じて市の魅力を感じるような戦略的なシティプロモーションを図る。	「北九州市が好き」「北九州市が誇り」「北九州市と関わりたい」と思い、市民や市出身者が自ら北九州市の魅力発信していく輪を広げ、北九州市への愛着・自信・誇りを高めていくために、 (1) ウェブサイト「北九州市 時と風の博物館」を通じて、特に若い世代に対して、シビックプライドの醸成や地域情報の効果的な浸透を図る。 (2) 「北九州市応援団」への戦略的な情報発信等を通して、本市の魅力を市内外で共有し、ロコミなどを活用したシティプロモーションを図る。 また、コロナ禍の影響による「地方回帰」の流れを活かすためにも、首都圏や福岡市、若者世代をターゲットに、引き続き効果的なシティプロモーションを図る。	
					本市が好きだと答えた（肯定的な回答をした）市民の割合	78.5%（H25年度）	目標 90.0% 実績 87.2% 達成率 96.9%	90.0% 87.0% 96.7%	90.0%（R6年度）									

令和4年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施											【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R3年度	R4年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 （基準値）	R3年度	R4年度	中期 目標	決算額 （千円）	予算額 （千円）							決算額 （千円）	
IV-4-(2)-① 戦略的なシ ティプロモ ーションの展開	16	⑧	北九州市魅力 発信事業	企画課	市民自らがまちの魅力を発信するウェブサイト「北九州市 時と風の博物館」を通じて、本市の魅力を発掘・再発見し、さらに情報の共有や補足等を行うことで、地域資源を磨きあげ、効果的な情報発信を展開する。	本市への愛着があると答えた（肯定的な回答をした）市民の割合	目標	90.0 %	90.0 %	90.0% (R6年度)	2,397	4,221	3,307	8,700	順調	成果指標の「本市への愛着がある」と答えた市民の割合は、令和3年度の実績に比べてわずかながら増加し、「本市が好きだ」と答えた市民の割合は、令和3年度の実績に比べわずかに減少した。 両指標とも目標値に達することはできなかったものの、成果指標の達成率は90%以上と高い水準で推移していることから、おおむね「順調」と判断。	順調	【評価理由】 戦略的なシティプロモーションの展開のために、市民自らがまちの魅力を発信する北九州市魅力発信事業での「北九州市 時と風の博物館」において、一定の成果を収めているため「順調」と判断。 【課題】 若い世代を含めた幅広い世代を広く巻き込むことで、多くの市民が本サイトを通じて市の魅力を感じるような戦略的なシティプロモーションを図る。 また、コロナ禍の影響による「地方回帰」の流れを活かすためにも、首都圏や福岡市、若者世代をターゲットに、引き続き効果的なシティプロモーションを図る。	「北九州市が好き」「北九州市が誇り」「北九州市と関わりたい」と思い、市民や市出身者が自ら北九州市の魅力発信していく輪を広げ、北九州市への愛着・自信・誇りを高めていくために、 (1) ウェブサイト「北九州市 時と風の博物館」を通じて、特に若い世代に対して、シビックプライドの醸成や地域情報の効果的な浸透を図る。 (2) 「北九州市応援団」への戦略的な情報発信等を通して、本市の魅力を市内外で共有し、ロコミなどを活用したシティプロモーションを図る。	
							実績	79.3% (H25年度)	83.1 %											83.8 %
							達成率		92.3 %											93.1 %
						本市が好きだと答えた（肯定的な回答をした）市民の割合	目標	90.0 %	90.0 %	90.0% (R6年度)										
							実績	78.5% (H25年度)	87.2 %											87.0 %
							達成率		96.9 %											96.7 %
IV-4-(2)-② 北九州を応援する人のネットワークによる情報発信	17	⑧	北九州市魅力 発信事業	企画課	市民自らがまちの魅力を発信するウェブサイト「北九州市 時と風の博物館」を通じて、本市の魅力を発掘・再発見し、さらに情報の共有や補足等を行うことで、地域資源を磨きあげ、効果的な情報発信を展開する。	本市が好きだと答えた（肯定的な回答をした）市民の割合	目標	90.0 %	90.0 %	90.0% (R6年度)	2,397	4,221	3,307	8,700	順調	成果指標の「本市への誇りや自信がある」と答えた市民の割合及び「本市が好きだ」と答えた市民の割合は令和3年度の実績に比べわずかながら減少したが、「北九州市の魅力」を1つ以上伝えることができる」と答えた市民の割合は令和3年度の実績に比べて上昇した。 各指標とも目標値に達することはできなかったものの、成果指標の達成率は70%以上で推移していることから、おおむね「順調」と判断。	順調	【評価理由】 首都圏応援ネットワーク拡大事業については、目標人員を大幅に越えるサポーターを獲得することができた。 また、北九州市魅力発信事業及びふるさと寄附金促進事業についても、おおむね目標値を達成しているため、総合的に「順調」と判断。 【課題】 各事業において、おおむね目標値は達成しているものの、支援者の本市への興味・関心の持続・深化を図るとともに、本市への愛着や誇りを共有してもらえるような取組を行っていく必要がある。 また、既存の支援制度の枠組みにとらわれず、支援者が選択できるような仕組みであったり、一定以上の支援をしてきた方に対するインセンティブなども検討し、さらなる本市の魅力発信に取り組んでいく必要がある。 首都圏応援ネットワーク拡大事業については、関係人口となったサポーターが、さらに本市に愛着を持ち、より深い関係性を構築していく事が望まれる。	「北九州市が好き」「北九州市が誇り」「北九州市と関わりたい」と思い、市民や市出身者が自ら北九州市の魅力発信していく輪を広げ、北九州市への愛着・自信・誇りを高めていくために、 (1) ウェブサイト「北九州市 時と風の博物館」を通じて、特に若い世代に対して、シビックプライドの醸成や地域情報の効果的な浸透を図る。 (2) 「北九州市応援団」への戦略的な情報発信等を通して、本市の魅力を市内外で共有し、ロコミなどを活用したシティプロモーションを図る。 首都圏応援ネットワーク拡大事業については、関係人口となったサポーターに継続して本市と関わりを持っていただけよう、首都圏において効果的な情報発信を展開する。	
							実績	78.5% (H25年度)	87.2 %											87.0 %
							達成率		96.9 %											96.7 %
						本市への誇りや自信があると答えた（肯定的な回答をした）市民の割合	目標	75.0 %	75.0 %	80.0% (R6年度)										
							実績	56.7% (H25年度)	55.2 %											55.0 %
							達成率		73.6 %											73.3 %
						市外からの来訪者に対し、「北九州市の魅力がいくつ伝わりますか」との質問に対し、「1つ」以上あると答えた市民の割合	目標	83.2% (H23年度)	95.0 %	95.0 %										95.0% (R6年度)
							実績		87.1 %	88.0 %										
							達成率		91.7 %	92.6 %										

令和4年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 （基準値）	R3年度	R4年度	中期 目標	決算額 （千円）	予算額 （千円）	決算額 （千円）						
	18	⑧ ⑩	首都圏応援 ネットワーク 拡大事業	東京 事務所	首都圏において 民間とのタイアッ プによる効果的な 情報発信を展開す る。また、本市を 応援・サポートす る新たな人的ネッ トワークを構築す る。	KitaQサポーター 登録者数	2,032人 (R1年 度)	目標 2,700 人 実績 2,961 人 達成率 109.7 %	2,900 人 3,746 人 129.2 %	登録者 数計 3,100人 (R5年 度)	3,724	4,050	2,619	4,900	大変 順調	KitaQサポーターの登録人 数が、目標人数を大幅に越え たことから、「大変順調」と 判断。			
	19	③ ④ ⑤ ⑦ ⑧ ⑩ ⑪ ⑰	ふるさと寄附 金促進事業	企画 課	「ふるさと北九 州市応援寄附金」 についてPRし、寄 附件数及び寄附金 額の増加を図る。 また、寄附金の 使い道を寄附者が 選択できる仕組み と一定額以上の寄 附者に対する地元 特産品等の贈呈を 通じ、本市の魅力 を全国に発信す る。	寄附件数	46件 (H24年 度)	目標 前年度比 (64,616 件) 増 実績 96,953 件 達成率 150.0 %	前年度比増 105,718 件 109.0 %	—	885,845	1,110,000	1,050,643	21,450	順調	平成30年度に強化した取組 内容（返礼品の調達方法の見 直しや様々なPR媒体の活用） を継続し、令和4年度は更なる 寄附額増加を目的に、以下の 戦略的な取組を実施した。 ①物価高騰などの社会情勢 や寄附者のニーズに応じた返 礼品の開発及びPR ②返礼品提供事業者の拡充 (約150→約200へ増加) ③寄附受付サイト（民間 ホームページ）の拡充（1サ イト拡充し、合計6サイト へ） 以上の取組を行い、寄附件 数や寄附金額が大幅に増加し たため、「順調」と判断。			
						寄附金額	約450万 円 (H24年 度)	目標 前年度比 (112,654万 円) 増 実績 181,809 万円 達成率 161.4 %	前年度比増 202,806 万円 111.5 %	—									
IV-4- (2)-③ 都市イ メージ の向上	20	⑧ ⑩	情報発信・取 材協力事業	企画 課	本市の認知度と 都市イメージの向 上を図るため、新 聞、雑誌、テレ ビ、インターネット 等のマスメディ アを通じた本市の PRに取り組む。	北九州市の認知度 (地域ブランド調 査によるもの)	19位 (H25年 度)	目標 10位以内 実績 17 位 達成率 —	10位以内 18 位 —	10位以 内 (毎年 度)	19,025	18,322	17,214	20,950	やや 遅れ	タイムリーな情報発信のため、 配信サービスを活用する など、ターゲットと目的に 沿った広報媒体を選定し、情 報発信を図ったことから、地 域ブランド調査における「情 報接触度」の順位は向上し た。（R3年度：16位→R4年 度：15位）。 しかしながら、「認知度」 「情報接触度」ともに目標順 位を達成できなかったため、 「やや遅れ」と判断。	やや 遅れ	【評価理由】 新型コロナウイルス感染症 の感染拡大が落ち着き始め、 情報番組への露出が増えたこ とで、情報接触度の順位は向 上したが、北九州市の認知度 向上にはつながらなかったた め、「やや遅れ」と判断。 【課題】 ターゲットの見極め及び 様々なメディアへの積極的な 情報発信に課題が残る。	情報発信については、引き 続きWebメディアや様々な媒 体を活用し、タイムリーな情 報発信を継続的に進め、効果 的なプロモーションを行う。
						北九州市の情報接 触度 (地域ブランド調 査によるもの)	15位 (H25年 度)	目標 10位以内 実績 16 位 達成率 —	10位以内 15 位 —	10位以 内 (毎年 度)									

令和4年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)						
V-3-(2)-② 公共施設の転 活用などの検 討	21	⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫	公共施設マネ ジメント推進 事業	都市 マネ ジメ ント 政策 課 (市 政変 革推 進室)	「公共施設マネ ジメント実行計 画」に基づき、公 共施設に関する 将来的な財政負担 を軽減するための取 組を進める。	公共施設保有量の 縮減	全公共 施設 (H26年 度)	目標 — 実績 — 達成率 —	— — —	約20% 削減 (R37年 度)	0	8,256	1,016	54,000	順調	令和7年度の公共施設マネ ジメント実行計画の見直しに 向け、公共施設白書で現状把 握、分析を行い、概ね計画ど おり実施したため、「順調」 と判断。	順調	【評価理由】 公共施設の保有量の縮減は 実行計画の目標通り、概ね推 移しているため、「順調」と 判断。 【課題】 今後の新規施設の状況によ り進捗率が変わる可能性があ る。 また、より一層、市民の理 解を深める必要がある。	公共施設マネジメント実行 計画に基づき、事業を継続す る。また、進捗管理や現状を 把握し、適切な公共施設マネ ジメントを行う。
V-3-(2)-③ 近代化 遺産など の文化財 の活用	22	①	世界遺産維持 活用保全事業	総務 課	国や関係自治 体、所有者等との 連携のもと、遺産 価値の保全につと める。	登録資産の保全	現状把 握のた めの調 査継続	目標 ユネスコへ の報告書作 成 実績 ユネスコへ の報告書作 成 達成率 —	ユネスコへ の報告書作 成 ユネスコへ の報告書作 成 —	ユネス コへの 報告書 作成 (毎年 度)	27,445	27,132	26,013	5,800	順調	世界遺産構成資産につい て、年次報告書を作成した。 加えて、まつり起業祭、わっ しょい百万夏まつりなどのイ ベントに、世界遺産PRブース を出展し、世界遺産の価値の 理解増進を図るとともに、目 標件数も達成したため「順 調」と判断。	順調	【評価理由】 新型コロナウイルス感染症 拡大防止の観点から、バスツ アーは実施できなかったが、 ツアー再開に向けた調整を 行った。世界遺産の保全に向 けた報告書の作成や、世界遺 産の価値の理解増進への取組 を実施したことから、「順 調」と判断。 【課題】 関係機関と連携しながら、 新型コロナウイルス感染症拡 大防止策を講じたバスツアー の実施と、世界遺産の更なる 魅力発信に努める必要があ る。	世界遺産の構成資産の保全 を図ると同時に、世界遺産の 理解増進に努め、バスツアー の実施など、賑わいづくりの 資源としての魅力向上を図 る。
	23	①	世界遺産集客 にぎわい創造 事業	総務 課	理解増進に向 けた取組として旧本 事務所見学バスツ アー等を実施す る。	バスツアーの参加 者数	64人	目標 160 人 実績 0 人 達成率 0.0 %	180 人 0 人 0.0 %	120人 (R5年 度)	500	1,400	386	5,800	遅れ	新型コロナウイルス感染症 の影響により、バスツアーを 実施できなかったため、「遅 れ」と判断。			

令和4年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画		【Do】 実施		【Check】 評価										【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 （基準値）	R3年度		R4年度		中期 目標	決算額 （千円）							予算額 （千円）
VII-1-(1)-① 「東アジア 経済交流 推進機構」事 業の推進	24	⑧ ⑩	東アジア（環 黄海）経済交 流推進機構推 進事業	国際 政策 課	平成16年に設立 した「東アジア 経済交流推進機 構」の共同事務 局として、会 員都市との連 絡調整、各会 議の窓口調整 や開催支援等 の管理運営に あたる。	会員都市間ネッ トワークの活用 による共同プロ ジェクトの件数	目標	2	件	2	件	2件以上 （毎 年度）	0	4,871	0	11,050	大変 順調	機構活動がより 活性化するよう 、部会活動の見 直しを実施。 新たな部会活動 の始動に向けて 会員都市との意 見交換を行い、 新部会発足につ ながる取組を行 ったため、「大変 順調」と判断。	【評価理由】 機構活動がより 活性化するよう 、部会活動の見 直しを実施。 新たな部会活動 の始動に向けて 会員都市との意 見交換を行い、 新部会発足につ ながる取組を行 ったため、「大変 順調」と判断。	各都市との情報 共有、交流を促 進するためのプ ラットフォーム （「交流促進部 会」）を活用し 、新たな部会 の発足につなげ ていく。
							※中期目標改訂 （R5年度目標設 定時）	4件 （H26年 度）	実績	1	件									
					東アジア経済交 流推進機構にお ける会議数	目標	4	件	4	件	19件 （R2～R6 年度）							【課題】 新部会発足を促 進するためには 、各都市が紹介 したい事例や、 連携を希望する 案件などについて 情報を共有する 必要がある。		
				24件 （H26～ H30年度）		実績	7	件	9	件										達成率
VII-1-(1)-② 都市間交 流・連携の 推進	25	⑩	国際交流事業	国際 政策 課	姉妹・友好都市 を中心とした海 外諸都市との様 々な分野での交 流推進を図るた め、訪問団の受 入れや本市から の訪問団派遣等 の交流事業を行 う。	姉妹・友好都市 を中心とした海 外諸都市との交 流事業参加者延 べ人数	目標	330	人	330	人	330人 以上 （毎 年度）	2,457	9,338	4,505	14,950	順調	国際的な人の往 来が再開され、 中国・大連市へ の訪問や、各国 諸都市からの視 察団受け入れな ど、対面での交 流が活発化した ことに加え、オ ンラインツール を活用した交流 も実施した。 また、各種SNS 媒体を活用した 戦略的な情報発 信を実施し、各 事業における指 標の実績値が令 和3年度を上回 ったため、「順調 」と判断。	【評価理由】 国際的な人の往 来が再開され、 対面での交流が 活発化したこと に加え、オンラ インツールを 活用した交流も 実施した。 また、各種SNS 媒体を活用した 戦略的な情報発 信を実施し、各 事業における指 標の実績値が令 和3年度を上回 ったため、「順調 」と判断。	姉妹・友好都市 をはじめ、アセ アン地域やオセ アニア等、様々 な国・地域との 交流強化や関係 構築に引き続き 取り組む。
							実績	300	人	335	人									
					成長するアジア の活力を本市に 取り込むため、 姉妹都市である ベトナム・ハイ フォン市やカン ボジア・プノン ペン都などアセ アン諸都市との 交流事業を実施 する。	アセアン諸国な どアジアの新興 国との交流事業 参加者延べ人数	目標	50	人	50	人	50人 （毎 年度）	880	3,960	1,344	7,955	大変 順調	国際的な人の往 来が再開され、 ベトナム・ハイ フォン市及びカ ンボジア・プノ ンペン都への訪 問や、各国大使 館等への訪問を 通じ、関係構築 を図ったため、 「大変順調」と 判断。		
				—			実績	19	人	86	人									達成率

令和4年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画		【Do】 実施		【Check】 評価										【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度		R4年度		中期 目標	決算額 (千円)						
	27	17	海外とのネットワーク強化事業	国際政策課	海外での本市の知名度向上、及び海外各都市とのネットワーク強化を図るため、より効果的で戦略的な情報発信、シティプロモーションを実施する。	各種SNSによる発信件数	—	目標	288 件	288 件	288件 (R5年度)	711	4,700	3,676	3,075	大変 順調	各種SNSの特徴に応じた情報発信を行い、目標値（閲覧件数）を大幅に上回ったことから、「大変順調」と判断。		
※中期目標改訂 (R5年度目標設定時)		実績	358 件	331 件	達成率	124.3 %	114.9 %												
各種SNSの閲覧件数	—	目標	15,000 件	15,000 件	1,500,000件 (R5年度)	実績	7,386,517 件	9,179,061 件	達成率	49,243.4 %									
※中期目標改訂 (R5年度目標設定時)		達成率																	
VII-1-(2)-② 文化・スポーツ交流の拡大	28	17	国際交流事業	国際政策課	姉妹・友好都市を中心とした海外諸都市との様々な分野での交流推進を図るため、訪問団の受入れや本市からの訪問団派遣等の交流事業を行う。	姉妹・友好都市を中心とした海外諸都市との交流事業参加者延べ人数	343人 (H26年度)	目標	330 人	330 人	330人以上 (毎年度)	2,457	9,338	4,505	14,950	順調	国際的な人の往来が再開され、中国・大連市への訪問や、各国諸都市からの視察団受け入れなど、対面での交流が活発化した。必要に応じ、オンラインツールも活用しながら、姉妹・友好都市を中心に各国諸都市との交流機会の拡大に努め、交流事業件数、参加人数ともに令和3年度を上回ったため、「順調」と判断。	【評価理由】 交流事業件数、参加人数ともに令和3年度を上回ったため、「順調」と判断。 【課題】 都市間交流については、双方に意義のある交流を行っていく必要がある。	行政間交流や文化交流の枠を超え、姉妹・友好都市等と本市の双方にメリットとなる分野について、情報交換をしながら、引き続き、交流を行っていく。
実績		300 人	335 人	達成率	90.9 %	101.5 %													
VII-2-(2)-② 海外の経済事務所の活用	29	8 17	中国ビジネスサポート拠点整備事業	国際政策課	駐中国北九州市経済事務所を設置・運営し、地元企業のビジネスサポートや進出支援を行うとともに、本市と中国の都市とのネットワークを形成・強化する。	海外事務所の本市地域企業への貢献度	—	目標	80.0 %	80.0 %	80% (R5年度)	33,787	37,544	31,968	3,075	順調	市内企業及び中国企業の利用者数ともに増加に転じ、目標を達成したため、「順調」と判断。	【評価理由】 市内企業及び中国企業の利用者数ともに増加に転じ、目標を達成したため、「順調」と判断。 【課題】 市内企業に対し、海外事務所の存在の優位性を示すことが重要となる。	市内企業のニーズに合った中国国内の情報提供等ができるように、中国でのネットワーク強化や中国の経済動向の情報収集などを引き続き行っていく。
実績		91.6 %	91.2 %	達成率	114.5 %	114.0 %													
海外事務所を利用した企業数	—	目標	200 社	200 社	200社 (R5年度)	実績	187 社	210 社	達成率	93.5 %									

令和4年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 （基準値）	R3年度	R4年度	中期 目標	決算額 （千円）	予算額 （千円）	決算額 （千円）						
VII-2- (3)-② 国際都 市にふ さわし いまち づくり	30	④ ⑩ ⑪ ⑰	多文化共生の 推進	国際 政策 課	日本人市民対 して、多文化共生 に関する意識啓発 や国際交流の機会 や場の提供を行う ことで、外国人を 受け入れる地域づ くりを目指すとし て、すべての市民 が安心して暮ら し、自己の能力を 発揮できる「多文 化共生先進都市」 としてのまちづく りを推進する。	市民の「多文化共 生」という言葉の 認知度	51.8% (H29年 度)	目標	54.0 %	61.0 %	62% (R6年 度)	39,840	42,803	42,054	3,075	順調	多言語ラジオ放送により、 北九州市在住の外国人市民が 本市の魅力や母国について語 る「北九州市多文化共生 Radio」による啓発番組の放 送や、外国人市民と日本人大 学生がペアを組みロゲイニン グを行う「多文化共生ロゲイ ニング」を初めて開催するな ど、多文化共生のまちづくり につながる意識啓発を行った ため、「順調」と判断。	順調	多文化共生の理解者の広が りや、地域づくりの担い手育 成に向けて、引き続き、外国 人市民及び日本人市民のニー ズを把握し、必要な事業を実 施する。
								実績	59.9 %	60.6 %									
								達成率	110.9 %	99.3 %									
VII-3- (1)-① 県内周 辺市町 村との 広域連 携推進	31	④ ⑩ ⑪ ⑰	多文化共生ワ ンストップイ ンフォメー ションセン ター運営事業	国際 政策 課	外国人市民が安 心して生活でき るための情報提供 や相談に多言語で 一元的に対応す る「北九州市多文 化共生ワンストップ インフォメーショ ンセンター」の運 営を行う。	外国人市民の生活 環境の向上 （多文化共生の現 状調査で暮らしや すいと回答）	79.7% (H26年 度)	目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	80%以 上 (R6年 度)	24,715	24,715	24,715	2,325	順調	北九州市多文化共生ワン ストップインフォメーション センターにおいて、電話やメー ル等を含め、年間1,140件の 相談に対応しており、関係機 関との連携により、外国人市 民の困りごとに解決まで伴走 して対応するなど、外国人市 民の生活環境の向上に向けた 取組を実施したことから、 「順調」と判断。	順調	日本人市民と外国人市民 が、”顔の見える関係”を築 くには、引き続き、地域にお ける多文化共生の取組に課題 が残る。
								実績	—	—									
								達成率	—	—									
VII-3- (1)-① 県内周 辺市町 村との 広域連 携推進	32	⑧ ⑰	北九州都市圏 域連携事業	総務 課	本市を含め18市 町で形成された、 連携中枢都市圏 「北九州都市圏 域」のブランディ ング、プロモー ション事業を行 う。	北九州都市圏域内 の宿泊者数	177.4万 人 (H27年)	目標	現観光振興 プラン更新 時に設定	現観光振興 プラン更新 時に設定	現観光 振興プ ランの 数値を 踏まえ、 令和5年 度中に設 定予定	1,977	4,000	1,955	17,400	順調	新型コロナウイルス感染症 の拡大状況を踏まえ、交流・ 連携事業の形式を一部変更し たが、WEB等を活用し、情報 発信や福岡都市圏におけるイ ベント開催など、プロモー ションを行った。加えて、近 隣自治体との会議を7回実施 し、情報共有を図ることがで きたため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 「北九州都市圏域」のプラ ンディング、プロモーション 事業については、新型コロナ ウイルス感染症の拡大状況を 踏まえ、交流・連携事業の形 式を一部変更したが、WEB等 を活用し、情報発信や福岡都 市圏におけるイベント開催な ど、プロモーションを行った ため、「順調」と判断。 【課題】 今後も周辺市町との連携を 一層強化していく必要があ る。
								実績	155.4 万 人	集計中									
								達成率	—	—									

令和4年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施					【Check】 評価 / 【Action】 改善												
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 （基準値）	R3年度	R4年度	中期 目標	決算額 （千円）	予算額 （千円）	決算額 （千円）						
VII-3-(1)-② 近隣主要都市との都市間連携	33	⑩ ⑰	広域行政推進事業	総務課	<p>下関市との連携については、県境を越えて両市の経済成長・文化交流に繋がる取組を行う。</p> <p>また、福岡市との連携については、福岡県内の政令市同士として共同施策を推進する。</p>	<p>本市と下関市両市の企画部門等で会議を開催し、両市の経済成長に繋がる取組について協議・検討</p>	目標			<p>関門地域連携推進協議会とそれに伴う両市企画部門等の会議の開催</p>	2,380	3,972	2,291	13,300	順調	<p>下関市・福岡市との連携について、定期的に協議・検討を行っていることから「順調」と判断。</p>	順調	<p>【評価理由】 下関市や福岡市との連携について、担当部門会議で、定期的に協議・検討を行っていることから、「順調」と判断。</p> <p>【課題】 今後も近隣都市との連携を一層強化していく必要がある。</p>	<p>今後もより一層、周辺市町との連携を強化できるよう、交流・連携事業を推進していく。</p>
							実績	—											
						達成率	—												
						目標													
						実績	40	事業	40	事業									
						達成率	95.0	%											
						目標													
						実績	26	事業	26	事業									
						達成率	100.0	%											
						目標	40	事業											
						実績	40	事業											
						達成率	100.0	%											
						目標													
						実績	80,400	百万円 (R2年)											
						達成率													

令和4年度 行政評価の取組結果（企画調整局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R3年度	R4年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R4年度 事業 評価	評価の理由	R4年度 局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R6年度予算要求に向けた 施策の方向性			
						指標名等	現状値 （基準値）	R3年度		R4年度		中期 目標	決算額 （千円）							予算額 （千円）	決算額 （千円）	
VII-3-(2)-② 九州各 地域な どとの 連携	35	⑩ ⑰	広域行政推進 事業	総務 課	【西九州軸連携】 九州新幹線沿線 自治体（鹿児島 市、熊本市、福岡 市）との「四都市 連携」と福岡県内 の政令市同士とし て共同施策を進め る福岡市との「福 北連携」を核とし た広域連携に加え て、鹿児島県南九 州市との都市間交 流の推進により、 九州の一体的な発 展のため、西九州 軸の広域連携の強 化を図る。	連携事業の実施 （西九州軸での活 動）	1回 （H28年 度）	目標 1 回	1 回	1 回	1 回	1回 （毎年 度）	2,380	3,972	2,291	3,075	大変 順調	新型コロナウイルス感染症 の拡大状況を踏まえ、交流・ 連携事業の形式を一部変更す るなど、工夫を重ね、積極的 に行ったため、「大変順調」 と判断。	大変 順調	【評価理由】 九州地域などにおける交 流・連携都市数の維持、連携 事業の実施などから、「大変 順調」と判断。 【課題】 今後も交流・連携の枠組み を維持・継続し、九州の各地 域との連携を一層強化してい くため、都市間の交流を推進 していく。	今後も交流・連携の枠組み を維持・継続し、九州の各地 域との連携を一層強化してい くため、都市間の交流を推進 していく。	
					連携事業の実施 （東九州軸での活 動）	1回 （H28年 度）	目標 1 回	2 回	2 回	2 回	1回 （毎年 度）											
					四都市間にて市民 割引料金を適用す る市施設数（動物 園、美術館、博物 館など）	52施設	目標 52 施設	52 施設	52 施設	52 施設	52施設 （毎年 度）											
						達成率	100.0 %	100.0 %	100.0 %													